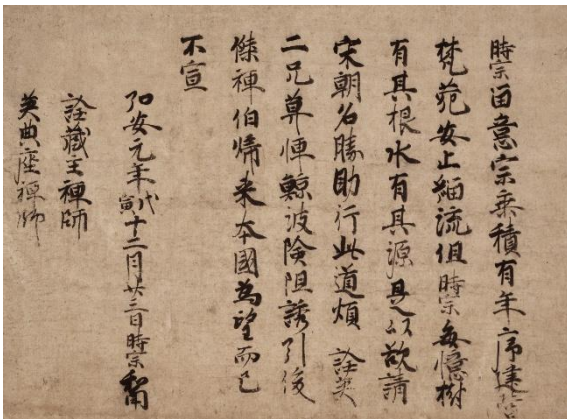


古文書

鎌倉の寺社には、鎌倉の歴史を伝える古文書^{こもんじよ}がたくさんのおさかれています。古文書とは昔の手紙のことです。幕府との交渉、お寺同士の交流など、人々の関係性の中で、文書は作られ授受されます。複数の文書を並べて見ることにより、文書を所蔵している寺社の歴史のみならず、鎌倉そのものの歴史をひもとくことができます。

また、昔の人々が書きのこした日記などの古記録も、歴史を知る上で重要な情報源となります。日常的な出来事、重要な事件・事柄などが書かれた記録は、じっくり読み解くと思わぬ発見があります。

更に、寺社の境内や荘園の様子を描いた絵図も、意外かもしれませんが、古文書の一種です。見た目にも面白いですが、文書や記録を視覚的に補うものとしても興味深いです。



北条時宗書状（拜請状）

重要文化財 円覚寺蔵 鎌倉時代
縦 32.4 cm × 横 44.8 cm

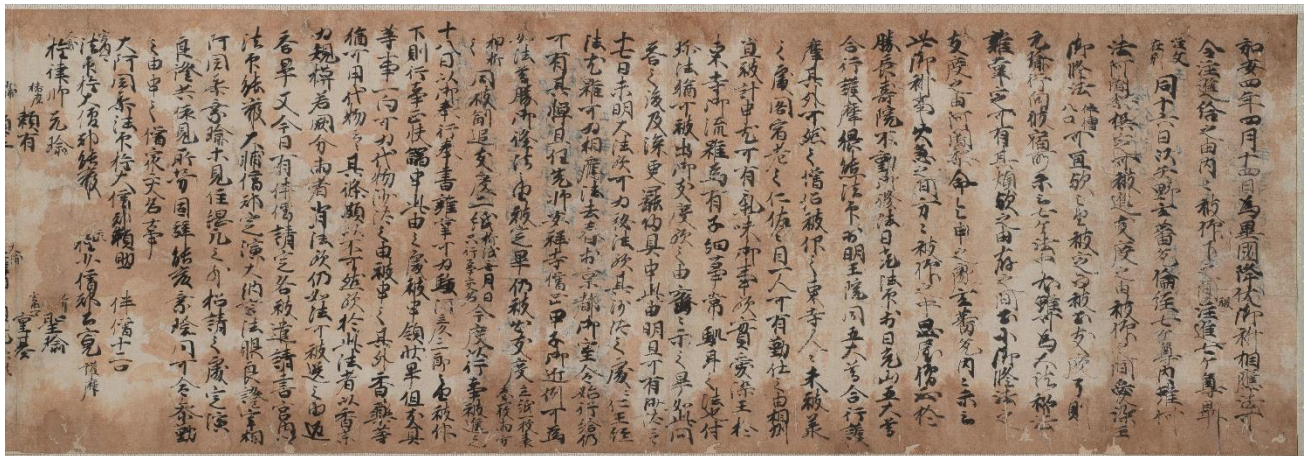
弘安元年（1278）12月23日、北条時宗^{ほうじょうときむね}が2人の僧侶、無及徳詮^{むぎゅうとくせん}・傑翁宗英^{けつとうそうえい}に送った書状です。仏法の源のある宋朝に行き、優れた禅僧を連れて日本に戻ってくるよう、両禅師に依頼しました。この招きを受けて来朝したのが、後の円覚寺開山・無学祖元^{むがくそげん}です。



智海心慧置文

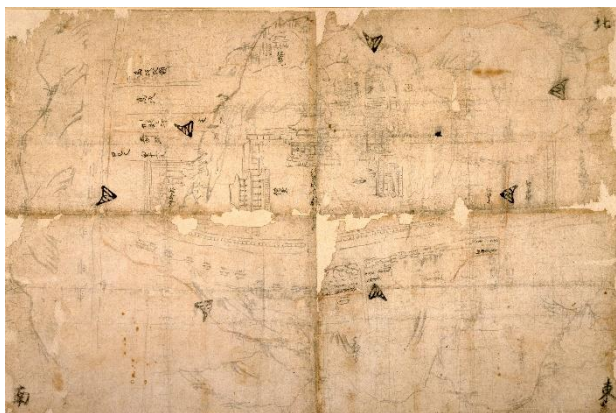
重要文化財 覚園寺蔵 鎌倉時代
縦 30.7 × 横 63.7 cm

嘉元4年（1306）4月21日、覚園寺開山である智海心慧^{ちかいしんえ}が記した置文（遺言状）です。覚園寺の境内に当時あった仏殿や法堂などの諸堂宇について、修造を行うよう伝えるものです。亡くなる直前の書には、少々乱れながらも気迫がこもっています。



異国降伏御祈祷記 神奈川県指定文化財 明王院蔵 鎌倉時代
縦 27.2 cm × 横 740.2 cm

文永・弘安の役のうち、弘安4年(1281)、2度目の襲来に先立って行われた異国降伏祈祷の記録です。同年4月、鎌倉幕府第7代将軍惟康親王の命により、幕府小御所内で如法尊勝法という修法が行われました。この記録では、僧頼助がその命を受けてから準備を進め、修法を勤修し、結願の報告を終るまでの14日間の出来事が日記形式で記され、関連の文書の写しとともにのこされています。



浄光明寺敷地絵図 重要文化財 浄光明寺蔵 南北朝時代
縦 63.4 cm × 横 95.5 cm

鎌倉幕府滅亡後の浄光明寺を描いた図です。中央に仏殿を、左右には僧堂と庫院がみえます。境内を囲む朱色の線や、線の上に書かれた足利氏の重臣・上杉重能の花押から、朱線内を境内地として認めるために作成したものと考えられます。



明月院境内絵図 重要文化財 明月院蔵 室町時代
縦 84.2 cm × 横 127.6 cm

明月院の境内を描いた絵図です。明月院は、北条時宗が蘭溪道隆を開山として創建した禅興寺の塔頭です。この絵図には明月院や周猷庵がみえます。寺域を朱線で囲み、内側に鎌倉公方・足利氏満の花押を据えることから、境内地の確定を目的として作成されたと考えられます。